

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 8月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700103		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホーム宮内温泉ひまわり（1階）		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215番地の1 (電話) 0829306071		
自己評価作成日	平成24年5月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700103-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成24年8月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小規模多機能ホームとの複合施設の為、行事やクラブ活動（カラオケ・書道・手芸・おやつ）など合同で行い、利用者様同志の交流を図りながら、認知症の進行を防ぐよう努力をしています。また、デイサービスやデイケアから催し物の誘いがあるときは、出来るだけ参加して頂き、外出の機会を設けています。職員同士も笑顔と思いやりのある心を大切に、色々な場面で助け合うよう心掛けています。そして、お風呂は温泉の成分が含まれているので、心身ともにリラックスして入って頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ホームの理念「笑顔を大切に」の実践では、職員同士が声かけを行い、いつも笑顔で接するように努めており、ホーム内は家庭的な雰囲気の中、入居者が笑顔で過ごしている。職員は、入居者の「したいこと」を大切に考え、家族の要望を参考にしながら、利用者本位のケアプランを作り、「したいこと」が実現できるように支援していきたいと考えている。隣接の小規模多機能ホームと一緒に、手芸クラブやおやつクラブなどのクラブ活動を行って、利用者同士の交流を図り、制作された作品は、2年に1回作品展で展示されている。また、ホームの裏には菜園があり、入居者と一緒に栽培、収穫された野菜は食材として利用され、日々の食卓に供されている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月2回の朝礼時に、医療法人みやうちの理念を唱和している。ホーム独自の理念を作成し、理念を共有して実践につなげられるよう努力している。	ホームの理念の下に立てられた目標に基づき、年間の基本方針が作成され、年度末には、評価を行う予定である。事業開始からまだ2年で、理念を職員に浸透させ共有するまでには至っておらず、模索中である。	ホームの理念を、月1回行われる職員ミーティングやカンファレンスなどで、職員全員で共有できるように努めて頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	足湯を開放したり、ボランティアに来ていただき交流をもっている。	年1回開催される法人主催の「健康フェア」に職員・入居者が参加し、交流を深めている。近隣の住民と散歩の途中で話をしたり、ボランティアが年に数回訪れ、演奏などを通じて入居者と交流をしている。	地域の住民活動が活発でないため、地域との交流ができていない環境にあるが、今後は事業所主催の季節のイベントに家族や地域住民を招待するなど、地域との交流を深める努力をして頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在は、病院が主で地域貢献をしている。今後は協力し活かしていきたい。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、運営推進会議を開催し、交流行事等の実施状況を報告している。利用者・家族からの意見要望を聞き、そこでの意見をサービス向上に活かし取り組んでいる。	運営推進会議には、入居者家族が毎回多数参加し、活発な意見交換がなされている。地域住民代表として、民生委員が参加されるようになり、地域の情報が得られるようになってきた。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事務長がパイプ役になり、市との連携を図っている。	法人の事務長が、事業所や関連事業所の窓口となり、行政との相談等に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は施錠せず、センサーで対応している。身体拘束はおこなっていない。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、職員はよく理解して実践している。特に「言葉による拘束」について気をつけるように、研修時に取り上げ努力している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の研修へ行った職員から学ぶ機会を持ち、虐待防止への注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、成年後見人を利用されている方がいないが、全体会議で簡単に勉強をした。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>相談員、ホーム長が十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会、運営推進会議、ケアプラン説明時に意見・要望を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>年1回の家族会や運営推進会議で、家族からの意見・要望を聞き、意見交換を行っている。また、3ヶ月に1回行われるカンファレンスにおいて、家族からの個別の要望を把握し、職員会議等で討議し共有している。</p>	<p>家族からの要望・苦情は、対応策を含め書類として記録に残し、問題点を職員と共有し、今後のサービス向上に役立てていただきたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の全体会議や週2回のカンファレンスを持ち、意見や提案を聞き反映させている。	月に1回行われる職員全体会議で、職員の要望・意見を聞いている。職員から出された意見については、試行し、改善策を職員全員で検討し、業務改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課をし面談を行い、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	院内研修や院外での研修内容を掲示し、さまざまな研修を受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は、2ヶ月に1回ホーム長同士の会議を行い、サービスの質を向上させていく取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、訪問を行い、本人が安心して生活していただけるよう、困っていること・不安・要望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	サービスの利用を開始する段階で、訪問を行い、ご家族が困っていること・不安なこと・要望に配慮しながら、個別ケアができるよう努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	訪問時に良く話しを聞き、本人と家族がまず必要としている支援を見極め、日常生活を楽しく過ごせるよう、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	入居者一人一人の個性を把握し、一緒に生活しやすい環境になるように話し合い工夫している。コミュニケーションを密に図り、信頼関係を深めている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	面会時にご家族と情報交換を行い、共に本人を支えていく関係を築いている。年4回新聞を発行したり、生活の様子・行事等の写真を掲示し、ご家族に伝えている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	本人の交流関係や場所を大切にできるような環境を作っている。面会時など場合によっては職員も一緒に会話をしている。	今までのかかりつけ医に継続受診したり、利用していた美容院に通うなど、なじみの関係の継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活の中で利用者同士の関係を把握した上で、トラブルのない様に、よりよい関係作りができるよう工夫している。色々な活動を通して、利用者同士が交流できるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで契約が終了した場合、面会や必要に応じて、本人・家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の状況を把握し、本人のペースに合わせた安全・丁寧なケアを心掛け、笑顔と温かい気持ちで耳を傾け対処している。	ケアプランの見直し時には、入居者全員のアセスメントを行い、各入居者の要望を把握するようにしている。自分の思いを伝えるのが困難な場合には、表情を観察したり、日々の関わりの中から推測したり、家族から情報を得る等して、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	安心して生活できるように生活暦・趣味等会話の中から、コミュニケーションをとれるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日のリズムつかんだりやコミュニケーションを円滑に行うとともに、1日1回バイタルチェックし心身状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時、入居者の状況を把握し、本人・家族の希望を大切にし、わからないときは職員と相談をし、できるだけ暮らしやすい環境で生活できるよう計画を心掛けている。</p>	<p>本人の要望（外出などの本人がしたいことや自分でできる作業を行うなど）と、家族の要望（本人の能力を維持させたいなど）が実現できるようなケアプランを目標に、職員全員で検討し、作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに基づき、ケアの実践に努め、情報を積極的に取り入れ、創意工夫を心がけ改善・見直しに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>絶えず進歩する技術をマスターして介護の質の向上を図るため、自己学習や研修会に参加し、多機能化に取り組むようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>病院の健康フェアやデイケア・デイサービスの催しに参加したり、ボランティア活動を利用し、メリハリのある暮らしができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診は入居時本人、家族の希望を大切にし、適切な医療を受けられよう支援している。</p>	<p>協力医は、定期的な受診で入居者の健康状況を把握している。また、本人や家族の希望により、今までのかかりつけ医に受診することもあり、入居者にとって適切な医療を受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は情報や気づきを、准看護師であるホーム長に報告し、また併設病院の看護部長にも報告し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、病院関係者との情報交換や相談などは、面会時・電話等で対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合について、医師が状況説明を行った上で、家族または本人・職員等と事業所で出来ることの説明や意思確認を行い、同意の上で、状態の変化に応じ医師・医療関係者との連携をとりながら、介護計画作成し、支援していく。</p>	<p>ホームとしては、看取りを行う方針であるが、まだ事例はない。重度化した場合には、法人の医療機関と連携・協力して入居者をバックアップする体制が整っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時や事故発生時に備えて、急変時のマニュアルを作成し、シュミレーション訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災・地震・水害等のシュミレーション訓練を月1回行っている。</p>	<p>月1回行われる防災訓練には、入居者も参加し行われる。毎回の訓練では、夜勤・日勤など様々な勤務体制を想定し、避難誘導・通報の確認・実際の移動手段などについて、実践的な訓練を行っている。また、災害時には、隣接する法人施設に連絡を取り、応援・協力が得られるような体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、思いやりのある言葉かけや対応を心掛けている。	人格を尊重し、特になれなれしい言葉を使わないように留意している。入浴時にはカーテンを閉めてプライバシーが確実に確保できるように努めている。また、職員が居室に入室する際には、必ず声掛けをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思い・希望を尊重するケアを心がけ、気配りをしながらアプローチをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活空間で、可能な範囲で役割を持ちながら生活を行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望により美容院を利用したりしている。化粧される方には、化粧品が揃うよう支援している。着替えも自分で選んで頂いている。男性は、毎日髭剃りをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物の希望があるときは、希望に添えるよう献立を考えたり、一緒に準備や食事作りをしている。旬の物を取り入れ季節感を感じていただいている。	添加物の少ない食材や、菜園で育てた野菜を使うなど健康に配慮している。また、花見や秋の遠足には手作りの弁当を皆で楽しんでいる。年に数回開催されるおやつクラブでは、参加した入居者はおやつ作りを楽しみ、できたおやつを、入居者や職員全員で美味しくいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立を週ごとに立てている。一人ひとりの状態にあった食事の形態とし、食事量のチェック・体重管理をしている。水分量は1日を通して確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前、口腔体操を行っている。一人ひとりの口腔状態を観察し、毎食後口腔ケアの声かけをし、必要な方には、口腔ケアの介助を行っている。必要に応じ義歯の方には、ポリグリップの装着・洗浄・ポリドントにつけたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、排泄リズムに合うよう声かけ・促し失敗を減らすよう対応している。自尊心を傷つけないよう、十分配慮した言葉遣いと対応を心掛けている。	オムツやポータブルトイレをなるべく使用せず、トイレで排泄できるように支援している。オムツ使用の人（現在1名）でも、日中は、声かけをして、歩いてトイレに行けるように誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりの排便確認を行っている。便秘気味の方には、医師の指示により下剤で調整している。食事の工夫や水分、軽い運動や散歩をして頂いている。規則的な排便習慣ができるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日、日時を決めておらず、声かけにて希望時に入浴して頂いている。17時以降の希望の方は現在おられない。	入浴の時間を設定せず、希望に応じて入浴できるようにしている。毎日入浴することができ、夜間の入浴もできるが、今は希望者がいない。入居者は温泉水の入浴を楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者のペースで休んでもらっている。昼間でも食後少しでも横になれるような時間も設けている。室温や服装にも気を配り、一人ひとりが快適に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬について、職員間で情報を共有している。薬が変更になった時は、特に症状の変化や副作用を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を活かした役割や園芸・畑づくりに関する助言を頂いたりしている。ゲームをしたり行事に参加したり、気分転換が出来るように工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に沿って、日光浴をしたり散歩・ドライブを行っている。家族の協力もあり、外出する機会も増えている。	ホームとしては、できるだけ毎日散歩するようにしている。その際には、入居者毎に個別に対応し、1日に数回行うこともある。個人の希望による買い物は、その都度対応しているが、今後はもう少し回数を増やしたり、外食についても検討したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力に応じて、お金や通帳を持って頂いている。買い物などの時に使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時は電話を使用して頂く。携帯電話を持たれている方は、携帯で連絡されている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用する空間は、特に清潔が保てるように配慮している。壁には、毎月のカレンダーを入居者と一緒に作ったり、季節にあったイラストも飾っている。</p>	<p>クラブ活動で作成した作品をホールに飾り、季節感を出している。入居者と一緒に毎日掃除を行い、施設内を清潔に保つように心がけている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりが、自由にくつろげる空間や交流出来る居場所作りを大切にして、テーブル・ソファ椅子の場所を工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>面会時など、場合により職員も一緒に相談をする。使い慣れた物や好みを活かした家具を持ってきていただいている。家具などの配置も希望に沿っている。職員も一緒に整理整頓をしている。</p>	<p>入居者の希望により、畳を居室に敷くこともでき、現在、畳の生活を継続している人がいる。また、今まで使用していた品を居室に持ち込んで、心地よく過ごせるように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部は、バリアフリーになっている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療法人みやうちの理念を月2回朝礼時唱和している。ホーム独自の理念を作成し、理念を共有して実践に繋がられるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	足湯を開放したりボランティアの方に来ていただき交流をもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	主に病院が地域貢献をしているが、常に協力し活かしていけるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、交流行事等の実施・状況を報告し話し合っている。入居者・家族からの要望・意見を聞きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事務長が主となり市への連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	玄関は施錠せず、センサーで対応している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	虐待防止の研修・講演会を受講し、報告書を提出し、全体会議時には発表して虐待防止に努めている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	全体会で学ぶ機会を持ち、簡単に勉強をした。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	相談員、ホーム長が、訪問時に十分説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	家族会、運営推進会議、ケアプランの説明時など意見や要望を聞き運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体会議や週2回のカンファレンスで意見・提案などを聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課し面接を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	院内研修や院外研修の内容を掲示し研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	二ヶ月1回管理者はホーム長同士の会議を開催し、サービスの向上を図れるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前に、必ず本人からの要望、不安なこと・何か困っていないかなどをお聞きし、要望に答えながら本人との信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用開始する段階で訪問を行い、家族が不安に思われていること、困っていること等要望を聞き、それに応えられるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>訪問時にしっかりと話を聞き、本人と家族が一番必要とされている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の意向を尊重し、いっしょに暮らしやすい環境になるよう工夫している。コミュニケーションを密に信頼関係を深めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族との情報交換を行い、共に本人を支えていけるような関係を築いている。また、年4回の新聞発行や写真を掲示し日常生活の様子を伝えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の交流や場所との関係を大切に出来るような環境づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を把握した上でよりよい関係づくりが出来るよう努めている。色々な活動を通して交流がもてるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで契約が終了した場合、必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の状況を把握し、希望や意向には耳を傾けて対処している。	ケアプランの見直し時には、入居者全員のアセスメントを行い、各入居者の要望を把握するようにしている。自分の思いを伝えるのが困難な場合には、表情を観察したり、日々の関わりの中から推測したり、家族から情報を得る等して意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常さりげない会話の中から生活歴等を引き出せるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日1回バイタル測定や日常生活の中から心身状態を読み取り、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	ケアプラン作成時、本人・家族・職員に相談し、出来るだけ暮らしやすい環境の中で生活できるような計画を作成している。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	ケアプランに基づきケアの実践に努め、職員間で気づきや工夫等の情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	進歩する技術をマスターし、本人のニーズを把握・対応し多機能化に取り組んでいく。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	デイケア・デイサービスでの催し、病院の健康フェアに参加するな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	受診は本人や家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>要観察に努め、情報や気づきを准看護師のホーム長に報告・相談をし、併設病院の看護部長にも報告し適切な受診や看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した際は病院関係者との情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に本人・家族と話し合う。また、病状の変化に伴い状況説明を行い、家族に充分説明し意思確認と理解を得ると共に主治医・看護師などの医療機関との連携を図りながら支援を行う。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時のマニュアルを作成し、シュミレーション訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>月1回色々な状況を想定し、火災訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	性格・介護度も違い、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーには充分注意し思いやりのある言葉かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を尊重するケアを心掛け、相手の立場で考えて声かけ行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく安心して生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えも自分で選んでいただいたり、希望により理容院を利用されたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べ物の希望がある時は希望に添えるよう献立を考え準備し、一緒に作ったりしている。一緒に準備・食事・後片付けをしている。旬の物も取り入れ季節を感じてもらえる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスを考えた献立にし，一人ひとりの状態にあった食事の形態とし，食事量と体重管理をしている。水分量もしっかりとってもらよう努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけを行い，一人ひとりの口腔状態の観察をし，必要な方には，誘導・準備・介助し口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄のパターンを把握し，必要な方にはトイレ誘導，介助を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの排便確認を行っている。便秘気味の方には，医師の指示により下剤で調整している。水分補給に心掛け軽い運動や食物繊維を多くとってもらうなど工夫している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>午前・午後好きな時間に入浴して頂けるよう声掛けをしている。17時以降の希望の方は，現在おられない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>温度湿度に気を配り一人ひとりが快適に安心して休んで頂けるよう支援している。また、入居者のペースで過ごして頂けるよう配慮している。夜間2時間おきに巡室をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者の薬の処方については職員が把握し、服薬管理をしている。薬の変更などあった場合異常がないか観察し職員間で情報を共有している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者個々により盆栽の水やりや歌を唄ったりゲームなど楽しみを共有しドライブ・行事の参加などに誘い、気分転換等の支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>その時の気分、体調に合わせて散歩・買い物・ドライブなどに出かけたり関連事業所で行われる行事に参加したりしている。家族の方・友人とも外出されたりしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じてお金を持って頂いており、買い物などの時に使えるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者が電話をかけたい時は、かけていただいている。携帯電話や手紙など自由に活用されている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>毎朝利用者と掃除をし、居心地よくしている。季節を感じていただけるよう四季のカレンダー作り、お花や作品など飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者が自由に過ごせるようテーブル・ソファ・テラスなどくつろげる場所を提供している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の部屋には、それぞれ使いやすいよう工夫していただき、好みの物を置いたり、飾り付けをしたりして居心地よく過ごせるよう配慮している。職員も一緒に整理・整頓をさせて頂き個性を大切にしながら快適に過ごして頂けるよう支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内は、広々しており安全面にも気配りし、一人ひとりのできることは、見守りしながらして頂けるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

1階		◎少しずつ増えている	
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

2階		◎少しずつ増えている	
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名グループホーム宮内温泉ひまわり

作成日 平成 24 年 9 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が職員全員に浸透できず共有できない	理念を職員全員に浸透させ共有する	毎日朝礼時に唱和する	1ヶ月以内
2	2	地域の住民活動が活発でない	事業所主催のイベントに家族や地域住民を招待し地域への交流を深めていく	イベント前にポスターなどの掲示を行ったり、家族に声かけし参加を促がしていく。	1ヵ年以内
3	10	1冊のノートに家族からの要望・苦情と対応策をまとめて記録に残していない	家族からの要望・苦情は対応策を含め書類に残し、サービス向上に役立てる	ノートを作成し要望・苦情があった場合、問題点を職員と話合っって対応策等全てを記録していく	1ヶ月以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。